SURE 静岡大学学術リポジトリ
Shizuoka University REpository

中学校家庭科と社会資源との協働によるシティズンシップ育成に関する研究

メタデータ	言語: ja 出版者: 静岡大学 公開日: 2016-06-14 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 加賀, 恵子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00009581

（課程博士・様式９）

愛知教育大学・静岡大学大学院教育学研究科

学 位 論 文 審 査 報 告 書

審 査 委 員

審査委員長　野地恒有

委　員　小川裕子

委　員　澤渡千枝

委　員　丹沢哲郎

委　員　石川恭

委　員

委　員

審査期間　平成２７年１１月２６日から　平成２８年　１　月２３日

審 査 論 文

中学校家庭科における社会資源との協働によるシティズンシップ育成に関する研究

専　　攻　共同教科開発学専攻

氏　　名　加賀恵子

生年月日　昭和３７年１１月２７日

提 出 日　平成２７年１１月２０日

（課程博士・様式 10）

審　査　概　評　　（1,000 字程度）

本学位論文は、国の内外を問わず世界的に教育界が取り組みを迫られているシティズンシップ育成という潮流と、地域社会や社会資源との協働に基づく学校教育の転換という二つの社会的・教育的背景を受けてなされた研究の成果である。これらの課題に対して、持続可能な社会を実現するための生活者育成を目指す家庭科教育は、最も適切な教科の一つである。しかしながら、先行研究を概観すると、国内では実践レベルでの社会資源の活用事例は多々あるものの、「協働」に基づく実践はほとんどなく、ましてそれを研究の俎上に取り上げたものはない。国外でもこのような視点から家庭科教育（Home Economics）を捉えた改革は緒に就いたばかりであり、研究課題としての新規性・先見性・オリジナリティーは妥当なものである。

本論文の構成は、大きく分けて三部からなる。まず本研究が採用する「実践的推論プロセスを用いた問題解決活動」の効果検証が、コントロールとしての学校も含め 3 校を対象に大がかりに行われ、この授業モデルの妥当性、すなわちこの活動による生徒の行動変容が確認された。興味深いのは成果が生徒に留まらずその保護者にも及んでいることであった。この知見は研究上他に指摘がなく、高い新規性をもつ結論である。

続いて社会資源との「協働」による授業効果の検証が行われた。具体的には「赤ちゃんとのふれあい体験」が取り上げられ、授業によるシティズンシップ育成が確認された。特に子どもに対する興味関心の向上が男子生徒に顕著に見られ、これはジェンダーフリーの社会構築への示唆を与えるものと評価される。

最後に、上記二つの結論を受け、これらを教育システムに組み込む試みがなされた。そこでは、ドイツのバイエルン州のマルチプリケーションシステムが参照され、浜松市における独自のシステム構築が図られ、ドイツのようにマルチプリケーターがいない現状を克服するために自身がその役割を引き受けることによって、研究上の困難を克服した。その成果は、この教育システムに参画した教員へのインタビューによって確認され、オリジナルな「シティズンシップ育成モデル」が提案された。この成果は教科開発学上価値ある知見であり、今後行政を本格的に巻き込んだシステム構築が期待される。

以上より、本論文は、博士（教育学）の学位を授与するにふさわしい内容であると認めるものである。